

都道府県番号	46
都道府県名	鹿児島

()

該当する観点にチェックすること

・学校名及び規模

吉田町立本名小学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊教育	計	教員数	
学級数	1	2	2	2	2	2	1	12		
児童数	37	52	42	43	46	48	1	269	21	

・実践研究の概要（主題（テーマ）及び設定の趣旨）

・主題（テーマ）

子供たちが生きる力を育む学習の創造
～今一步の学力向上を目指して～

・テーマ設定の趣旨

平成14年度から完全実施となった学習指導要領は、完全学校週5日制の下各学校がゆとりの中で特色ある教育を展開し、児童に豊かな人間性や基礎・基本を身に付け、個性を生かし、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を培うことを基本的なねらいとしている。

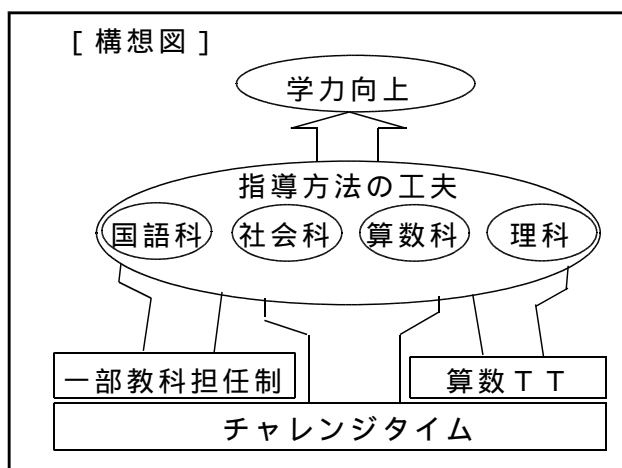
このねらいから、本校ではまず「生きる力」を培う基となるものを「読み・書き・計算」とその上に成り立つ各教科の学習内容と考え、これらを確実に身に付けさせていくことが大切であると考えた。そこで、新しい学習内容の理解も含めて、教材研究を充実させ、指導方法を工夫することで、個に応じた授業が展開でき、学力向上へとつながると考えた。

・実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

次のような内容で研究を進めた。

- ・教材研究を充実させるための指導体制の工夫
(一部教科担任制，算数TTの導入)
- ・国語科，社会科，算数科，理科の指導法の工夫
- ・「読み・書き・計算」の力をつける時間の設定（チャレンジタイム）



() 実践研究の内容

本校では、各教科の学習内容を確実に身に付けさせることが大切と考える。中でも国語科，社会科，算数科，理科は、自ら学び考えていく力として特に必要な

教科としてとらえ、この4教科の指導方法の工夫に取り組んだ。

1 国語科の指導方法の工夫

(1) 重点項目

- 一単位時間の授業充実
- ワークシートの活用

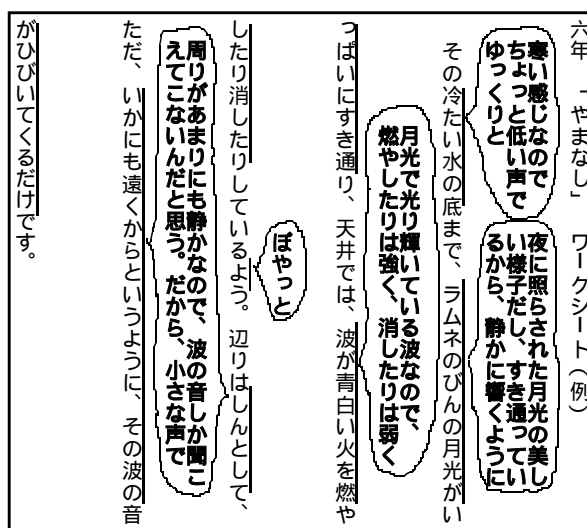
(2) 事例（心情や情景を表現する能力を伸ばす工夫）

ワークシートの活用

- 心情や情景を書くことで、自分なりの読みをさせる。
- 心情や情景から読みの工夫を書かせ、読みを深めさせる。
- 読みの工夫や心情、情景を確認しながら読むことができる。

話し合いの場の設定

- 互いの考えやよさを認め合い、心情や情景を読み深める。



2 社会科の指導方法の工夫

(1) 重点項目

- 資料活用能力を育む指導方法の工夫
- 地域素材の発掘、地域人材の確保
- インターネットの活用

(2) 事例（資料活用能力を育成する工夫）

小単元1サイクルによる問題解決学習

- 自ら考え、解決する学び方の育成
- インターネットを活用した疑似見学
- インターネット活用能力の育成
- 調べる道具の一つとして意識付け
- 課題別グループによる問題解決
- グループでの解決の仕方の育成（役割分担、話し合い、情報の選択）

調べる	主な学習活動	調
1	横浜港をインターネットで疑似見学し、港の様子や輸送の工夫などに興味を持つ。 横浜港をインターネットで見学して、調べたいことを見つけよう。	1
2	課題別のグループを作り、調べる。 日本各地を輸出・貿易 相手国 これからの貿易と運輸 結ぶ運輸 輸入 調べる活動 教科書・資料集・図書室資料・インターネット まどめ活動 画用紙 画用紙 画用紙 画用紙	3
情報交換会	交換会1 交換会2 交換会3 交換会4 課題別グループでまとめたものをそれぞれの交換会で発表し、情報交換をする。	1
まどめ活動	日本各地を輸出・貿易 相手国 これからの貿易と運輸 結ぶ運輸 輸入 課題別グループに戻り、情報交換会での情報を元にまとめる。	1
まどめ	3 課題別グループごとに発表し、学習のまとめる 日本各地を輸出・貿易 相手国 これからの貿易と運輸 結ぶ運輸 輸入	1
学習のまどめ		
活用したホームページ 横浜市のホームページ「みなとへGO」 http://www.city.yokohama.jp/me/port/learn/index.html		

調べた内容をより深めるための場の設定

- ・ 情報交換の仕方の育成
- ・ 情報活用能力の育成

3 算数科の指導方法の工夫

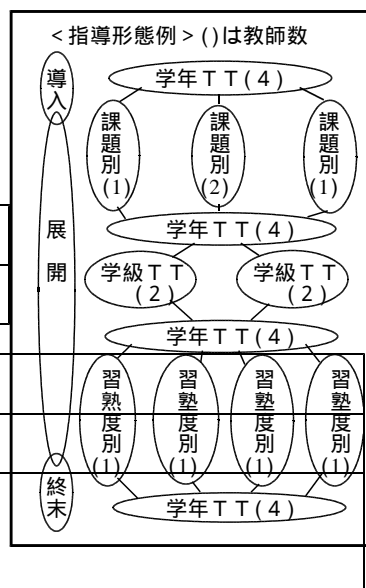
(1) 重点項目

一単位時間の授業充実を目指した指導方法の工夫
パソコンの活用

(2) 事例（効果的なT Tの形態の工夫）

学年T T	多様な意見から問題解決を図る場合や一斉指導の中で個別指導を充実させる。
学級T T	習熟度を図る段階で、一人一人の実態を正確に把握しながら行う。

課題別	解決したい課題別のコースを設定し、児童の意欲を高めながら行う。
習熟度別	単元の終末段階で習熟度別コースを設定し、個に応じた内容で行う。
少人数グループ	既習内容の個人差が大きい場合は、上位、中位、下位児童を適切に編成した少人数グループを作り、個人差に応じた進捗で進める。



4 理科の指導方法の工夫

(1) 重点項目

科学的な見方や考え方を育む指導方法の改善
実験の基本操作の徹底（操作ビデオの製作，チェックカードの利用）
インターネットの活用

(2) 事例（科学的な見方や考え方を育む工夫）

課題別学習活動の導入

- ・ 児童の興味・関心を高め、科学的な見方や考え方を育てる。
- ・ 児童の豊かな発想や疑問を大切にし、自主的な活動にする。
- ・ 実験の基本操作の徹底
- ・ 課題解決を効率的に行うために、実験器具の操作指導を十分行う。
- ・ 基本操作指導には、自作視聴覚教材を活用して、理解させる。
- ・ 支援計画書の作成
- ・ 各グループの活動状況やつまずきを把握し、個に応じた支援に生かす。
- ・ 実験結果などを事後指導に生かす。

() 成果と課題

1 成果

- ・ 4教科について重点項目を設定し、毎学期教科部会で反省をしたため、日々授業の時にも意識して取り組むことができた。
- ・ 研究授業を通して、学習内容の共通理解が図られるとともに、指導方法の工夫について検討することができた。

2 課題

- ・ 各教科、一回の研究授業だけだったので、継続した研究とその成果について検討する時間が必要である。
- ・ 基礎学力や学力の定義、総合的な学習の時間に必要な力を明確にして、教科間の連携を持たせた重点項目の設定や実践研究が効果的であると感じる。
- ・ 今後は、評価についても全体で検討していく必要がある。

() 成果の普及方策

本校の公式ホームページ (<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/es1/honmyo/top.htm>) 上で研究内容を公開する予定である。

4年「水のすがたどゆえ」
<指導計画> (全11時間)

次	主な学習活動
一	1 日常生活の中の水について話し合う。
二	2 調べてみたいことの計画を立てる。
三	3 調べ活動に必要な実験器具の使用法を知る。 ・ マッチ ・ アルコールランプ ・ ビーカー ・ 試験管 ・ スタンド ・ 三脚 ・ 温度計 ・ ろうと など
二	【課題別実験1】
四	4 グループで実験計画を立て、準備する。 ・ 必要な実験装置を作る。
五	5 計画に従って実験する。 ・ 水の加熱実験 ・ 水の沸騰 ・ 水を冷やす (グループによって実験装置が違う)
六	6 実験結果をグループごとに発表する。 ・ 意見交換をして、水のすがたについてまとめる。
二	【課題別実験2】
七	7 前回の経験を生かして、新たな実験の計画を立てる。 ・ もう少し調べてみたいことについて、実験計画を立てる。
八	8 計画に従って実験する。 ・ 水の加熱実験 ・ 水の沸騰 ・ 水を冷やす (グループによって実験装置が違う)
九	9 実験結果をグループごとに発表する。 ・ 日常生活で見られる水の状態変化と関連づけてまとめる。
三	10 水がすがたを変えながら自然の中をめぐっていることを調べる。 ・ これまでの学習から話し合う。
三	11 学習のまとめをする。